



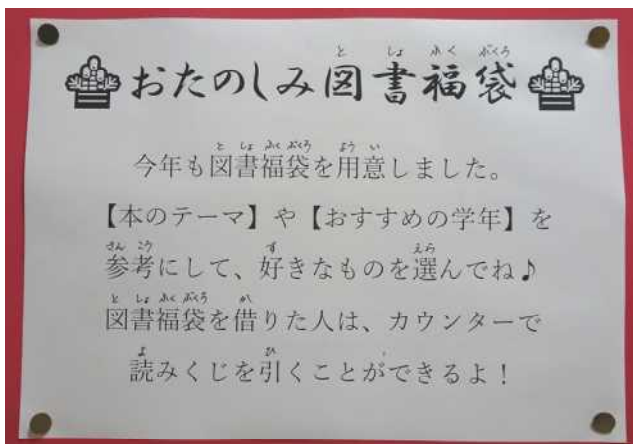
岳下っ子だより

大寒

明日は「大寒」。1年のうちで最も寒い時期を迎えています。この冬は、朝晩の冷え込みは厳しいものの、日中は比較的気温が上がるので、子どもたちは、休み時間になると、外に飛び出して駆け回っています。体育や業間に取り組んでいるなわとびの練習に一生懸命に励んでいる子もいます。はつらつとした子どもたちの姿に、私たち教職員はたくさんの元気をもらっています。



おたのしみ図書福袋



3学期スタートに合わせて、学校図書館司書の本田さんが、「図書福袋」を用意してくださいました。様々なジャンルの本に触れ、読書の幅を広げてほしいという本田さんの願いがこもっています。

福袋にどんな本が入っているのかは開けてみてのお楽しみですが、「本のテーマ」が記されているので、どれを選ぼうかとワクワクします。

【本のテーマ〈例〉】

- こわ〜い怪談が18話もある文庫本(4~6年生)
- 今年の干支が出てくる物語(1~3年生)
- 冬に読みたいディズニー小説(3~6年生)
- 家読100選からピックアップ(1・2年生)
- なんと不思議でSF的な物語(5・6年生)
- できるかな? マジックの本(全学年)

図書福袋を借りると読みくじを引けることもあって、人気は上々。次々に借りて読書に親しんでいるようです。

しばらくお声掛けしていましたが、毎月11日(いい日)と23日(ふみの日)は「うつくしいことばにふれる日」です。家族そろって読書に親しんでみてはいかがでしょうか。



縦割り班で長なわとび!

体づくりと縦割り班のつながりを深めることを目的に、1月17日~20日の業間に縦割り班で長なわとびを行っています。(17日と19日は1~12班、18日と20日は13~25班)



低学年の子どもたちは、長なわとびの経験が浅いので、なわに入るタイミングがなかなかつかめない子もいます。でも、上の学年の子ども

たちが、声を掛けたり背中を軽く押したりして優しく教えてくれるので、次第にコツをつかんでいきます。「もう少し!」「すごい!できたよ!!」という励ましの声も、大きなエネルギーになります。そして、続けて入れるようになると、モチベーションがぐんと高まります。

業間の時間は、あっという間に過ぎてしましますが、縦割り班の仲間と心一つに楽しい時間を過ごしています。



学びに向かう姿勢が しっかりと育っています

【1学年 算数科「おおい かず」】

1月17日（火）、1学年副担任 長澤 柗先生による算数科の研究授業を行いました。

たし算の表の数字の並びに「きまり」（規則性）を見だし、それをもとに、100までの数が書かれた表についても「きまり」を見付けて説明できるようにすることがねらいです。



+	1	2	3
1	2	3	4
2	3	4	5
3	4	5	6

子どもたちは、上記のたし算の表について、「たて」、「よこ」、「ななめ」に見ること、また、「一の位」や「十の位」に目を向けることで、「きまり」が見付かることをつかみます。そして、たし算の表の「きまり」をもとに、「100までの数」の表に書き込みをしながら、「きまり」を見付け出していきます。



まず、一人一人が「きまり」を見付けるための視点を表に書き込み、次に、近くの友だちとお互いの考えを伝え合います。伝え合うことによって、自分が気付かなかった考えに気付き、新たな「きまり」を見付けようとする意欲が高まります。



「たて」、「よこ」、「ななめ」の視点をもって数字の並びの規則性を捉え、「一の位」や「十の位」という算数の言葉を使って説明する子ども

たち。どの子も集中して授業に臨み、自ら考え、学び取っていく姿に成長を感じました。



学校を休んでいる子も、オンラインで学習しています。

和紙紙漉き体験

1月12日（木）、6年生は、和紙伝承館に紙漉き体験に出かけました。卒業証書に使う和紙を自らの手で漉くためです。

和紙伝承館では、まず、和紙を漉く手順や方法を実際にやってみせてもらいました。一緒に手を動かして、イメージトレーニングもしました。



さあ、いよいよ自分で紙を漉く番です。紙の繊維の量を見極めてすくい取り、枠を前後に動かしながら均等にならしていくのはコツのいる作業ですが、伝承館の方がそばでアドバイスしてくれるので、一人一人集中して丁寧に漉くことができました。



伝承館では、和紙を使ったしおりづくりも体験しました。

出来上がった和紙は、卒業証書となって、卒業式で一人一人に手渡されます。ふるさとの伝統産業を身をもって体験し、出来上がった和紙を一生の宝物として手元に残せることの素晴らしさを、一人一人が実感できたことと思います。

TOYOTAオンライン工場見学

1月16日（月）、5年生は「TOYOTA オンライン工場見学」を体験しました。

これまで、「工場見学」と言えば、実際にその場に出かけていき、直接話を聞きながら現



場の様子を見せていただくことでしたが、コロナ禍をきっかけに急速にオンラインが進み、学校教育の充実のために、企業側からこのようなオンラインの講座を開設してくださっています。

子どもたちは、一人1台のタブレットを使って、自動車製造の過程や様子だけでなく、国内の自動車関連会社やそこで働く人、様々な自動車メーカーのことなど、詳しく具体的に学ぶことができました。